

おすすめ図書&DVD

推薦学科	タイトル	著者・編者	紹介文	図書館所蔵有無
心理学科の おすすめ作品	『U 相模原に現れた世界の憂鬱 な断面』	森達也	入居中の知的障害者19人を殺傷した相模原事件について、オウム真理教の事件等取材してきた著者が、事件への世間の反応やメディアの報道の仕方、裁判のプロセスへの疑義を考察した一冊。被害者の人権、加害者の人権、それらを取り巻く社会システムについても考えることができる一冊です。	図書館にあります！
	「ヤングケアラー」とは誰か ～家族を“気づかう”子どもたちの孤立～	村上 靖彦	近年ようやく存在が認識されるようになったヤングケアラー。この本では主に家族のケアを担うことになった子どもたちの語りをつづさに追うことによって、介護や家事だけが「ケア」ではないことを明らかにしていくような本です。保護者の思いを忖度し、自身をヤングケアラーではないということも、病気のあるきょうだいの代わりに頑張らざるを得ない子どもなど、今まで語られることのなかったヤングケアラーの人権について考えさせられます。	図書館にあります！
理学療法学科のおすすめ 作品	SNS暴力 なぜ人は匿名の刃をふるうのか	毎日新聞取材班	SNSが、なぜ人に不幸をもたらす凶器として使われてしまうのか。どんな人が被害に遭い、加害者はどのような人なのか。(はじめにより) ツイッターやインスタグラムなどSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)は、スマホなどで情報発信、情報収集、コミュニティを広げるなど、優れたコミュニケーションツールですが、匿名で不特定多数に発信できるため誹謗中傷に使用されると差別やいじめ、それ以上の悲惨な事態も引き起こします。 本書は、SNS暴力の被害の実態、加害者の人物像、動機や心理、その背景因子、さらに多様で深刻な被害と被害の回復方法について解説されています。SNS暴力の加害者にも被害者にもならず、SNSの良い面を活用できて豊かな人生を歩みましょう。 目次 第1章 ネット炎上と加速する私刑／第2章 加害者たちの正体／第3章 言葉が刃に変わる時／第4章 深刻化する被害の真相／第5章 匿名の刃から身を守る／第6章 SNSの功罪	図書館にあります！
	望まない孤独	大空 幸星	私は現在、大学に通いながら、「望まない孤独をなくす」をミッションに掲げ、NPO法人あなたのいばしょを立ち上げ、24時間365日、年齢や性別を問わず誰でも無料・匿名で利用できる相談窓口「あなたのいばしょチャット相談」運営している。(はじめにより) 著者自身が孤独で苦しんだ経験から、ひとりで孤独に耐えることの限界、望まない孤独を社会全体の問題として捉え、社会全体で取り組むための具体的な対策を提示されています。	図書館にあります！
言語聴覚学科の おすすめ作品	オレンジ・ランプ	山国秀幸	ある日、僕は認知症と診断された。 まだ、39歳だった――。 実話をもとに描く、夫婦の9年間の軌跡。  僕は39歳で若年性アルツハイマー型認知と診断された。車の営業として働き盛りだった僕はその事実を受け入れられない。 だが、ある日、顧客の顔を忘れ、会議を忘れ、とうとう自宅への帰り道も忘れてしまった。 いつか大切な家族のことも忘れてしまうのだろうか。 「人生、もう終わり」。 そう思っていたが……。 実在の人物をモデルにした感動の物語。2023年映画化決定。	図書館にあります！
	「生存者」と呼ばれる子どもたち 児童虐待を生き抜いて	宮田 雄吾	長崎県の情緒障害児短期治療施設・大村橋の森学園。虐待により心身とも傷つけられ、かろうじて生き延びてきた子供たちが集まっている。今まで生きてこれただけで幸運だったと呼ばれる彼らと、それを支援する大人たちの壮絶な闘いを追ったノンフィクション。見捨てられ、傷ついた子どもたちと、その再生を願い苦闘する学園の人々の物語。	図書館がありません！
	チョコレートドーナツ	DVD	1979年カリフォルニア、ゲイの男性が育児放棄された障がいを持つ子供を育てたという実話に着想を得て製作された映画。 「歌手を目指しているショーダンサーのルディと弁護士のポールはゲイカップル。母親に見捨てられたダウン症の少年マルコと出会った二人は彼を保護し、一緒に暮らすうちに家族のような愛情が芽生えていく。しかし、ルディとポールがゲイカップルだということで法律と世間の偏見に阻まれ、マルコと引き離されてしまう。アメリカの実話を基に映画化。血のつながりはなくとも、少年を守るため奔走する主人公たちの無償の愛が描かれる。 日本では宮本亜門が演出、東山紀之、谷原章介らが出演し舞台化されている。	図書館がありません！

おすすめ図書&DVD

推薦学科	タイトル	著者・編者	紹介文	図書館所蔵有無
子ども教育学科のおすすめ作品	「子どもを育てない親、親が育てない子ども—妊婦検診を受けなかった母親と子どもへの支援—」	井上寿美・笹倉千佳弘 編著	文出産を控えている母親には、様々な背景があります。その様々な背景をもつ親やその子どもの問題について触れており、どのような支援が必要になるのかを考えることができる本となっています。日本に存在する親の実態やその考え、困っていることなどを知ることができる本です。子どもやその親の理解につながるのではないのでしょうか。	図書館にあります！
	「ルポ 保健室 子どもの貧困・虐待・性のリアル」	山千佳 著	学校の保健室には、貧困や虐待、いじめなどのさまざまな問題を抱えた子どもたちが最後の拠り所として集まっています。その中で、養護教諭の方々は、子どもたちが発する心の悲鳴を聴き取り、彼らの支えとなるべく日々奮闘しています。現代の子どもたちが強いられる困難の本質を探るルポルタージュとなっています。子どもの人権と切り離せないリアルな実態を知る上で、大切なことがわかる本となっています。	図書館にあります！
	「子ども 100 年のエポック」	田和子 著	21 世紀を生きる子どもたちの保育・幼児教育に携わろうとしている学生さんにこの著を紹介したいと思います。いうまでもなく私たち、保育者には「子どもの最善の利益」の理解が強く求められます。子どもの最善の利益とは「児童の権利に関する条約」1)の第 3 条に掲げられている子どもの権利、言い換えれば子どもの人権を第一義にとらえる考え方です。子どもの発見者と呼ばれる J.J.ルソー2)が誕生するまで、一般には子どもの人権意識はほとんどありませんでした。18 世紀以降のペスタロッチー3)やフレーベル4)等の多くの教育思想家によって、子どもを視座に据えた子ども親が生まれたのです。その流れを受けてエレン・ケイ5)は 1900 年に『児童の世紀』を発表、「20 世紀は児童の世紀である」を唱えました。その時から上記の「児童の権利に関する条約」までの 100 年の保育のエポックを記したのが、本書です。発行年度は少し古いですが、現代の混沌とした時代に、20 世紀の時空から子どもの人権、権利についての展望を示唆してくれる良著です。是非、手にとってお読みください。* 時代、新しく画期的な時代、ある特色づけられた時代を意味する。1) 児童の権利に関する条約(子どもの権利条約);The Convention on the Rights of the Child: 1989 年 11 月 20 日第 44 回国際連合総会で採択、日本は1994(平成6)年に批准。2) J.J.Rousseau:1712- 1778 3) J.H.Pestalozzi:1746-1827 4) F.A.Fröbel:782-1852 5) E.Key:1849-1926	図書館にありません！
	ようこそ こどものけんりのほん	えがしらみちこ／子どもの権利・気持ちプロジェクト	今、注目を集める「子どもの権利」を、えがしらみちこさんのあたたかいイラストがやさしく紹介してくれます。権利というと、一見難しいイメージがありますが、子どもたちと子どもに関わる大人を守る大切なもの。子どもの権利のはじめの一歩を親子で学べる絵本です。カバー裏には子どもの権利条約ポスターを印刷。	図書館にあります！
	「つながり続けるこども食堂」	浅誠 著	こども食堂は、現在「子どもを中心とした多世代交流の地域拠点」となっています。「人をタテにもヨコにも割らない場所」であるこども食堂の包括的なあり方が、子どもたち、親たち、地域の高齢者が抱える諸課題を解決し、超少子高齢化と財政難に苦しむ日本の地域と社会を前に進めていくための潜在的な力を持っていると著者は述べています。子どもの貧困対策の一つであるこども食堂の実態を理解し、「私たちができること」はどのようなことであるのかについて、具体的に学び考えることのできる本であると思います。	図書館にあります！

おすすめ図書&DVD

推薦学科	タイトル	著者・編者	紹介文	図書館所蔵有無
<p>社会福祉学科の おすすめ作品</p>	<p>『止まった刻(とき) 検証・大川小事故』</p>	<p>河北新報社報道部</p>	<p>2011(平成23)年3月11日に発生した東日本大震災の津波により、児童70人が死亡、4人が行方不明、教職員10人が犠牲となった石巻市立大川小学校。地震発生から津波到来までの約50分の間に、安全であるはずの学校で何があったのかを、当時の児童や保護者らの証言をもとに分刻みで再現し、「あの日、何ができたか」「できなかったか」についての詳細な検証がなされた一冊です。登校から下校までの学校管理下で起こった事故を我々はどう捉え、考えていく必要があるのか。この本はそれを強いメッセージとともに伝えてくれます。 同書は、その後の教育委員会の対応や事故検証委員会の検証結果、遺族による訴訟提起と第一審、控訴審判決というその後の経緯にも触れられています。悲劇を悲劇で終わらせることなく、大川小事故を未来への教訓とすることが我々に課せられた使命の一つであり、控訴審判決で示された「事前防災」の考え方は、対人援助を目指す我々にとって心にとどめておくべき大切な視点だと言えるのではないのでしょうか。</p>	<p>図書館にありません！</p>
	<p>DVD『大統領執事の涙』</p>	<p>DVD</p>	<p>2020年5月25日、米国ミネアポリスに暮らすジョージ・フロイドさんが、白人警官に膝で頸部を8分46秒間押さえつけられ、殺害されました。人種差別を背景としたこの事件は、2013年からのBlack Lives Matter運動が、全米のみならず世界的運動へと拡大するきっかけとなりました。白人警官によるアフリカ系アメリカ人の射殺が無罪判決されるなど、人種によって命の価値を差別する社会への抗議が続き、平等を求める声が世界中で高まっています。それは、人種の差別は、私たち人類の尊厳を問う“My Matter”だからです。 原題「The Butler(執事)」というこの映画は、アフリカ系アメリカ人として米国ホワイトハウスで34年間執事をした、セシル・ゲインズをモデルにして作られた映画です。綿花畑の奴隷として生まれ、ホテルのボーイを経てホワイトハウスの執事となり、8人の大統領の傍でアメリカの20世紀を見つめた人生が描かれています。この映画の核心は、「生きるために白人に服従すること」と「生きるために抗議すること」の間で揺れるセシルの葛藤です。21世紀のBlack Lives Matter運動を理解する上で、20世紀の苛酷な人種差別と、それに対して屈することのない抗議を描いたこの映画は必見です。</p>	<p>図書館にあります！</p>
<p>作業療法学科の おすすめ作品</p>	<p>アーモンド</p>	<p>ソン・ウォンピョン 矢島暁子訳</p>	<p>十六歳の高校生、ユンジェは脳の扁桃体(アーモンド)が小さく、怒りや恐怖を感じるができない。 十五歳の誕生日に、自分の目の前で家族が突然襲われた。けれどもユンジェは、ただ黙ってその光景を見つめているだけだった。感情を感じることはできないけれど、母親からたっぷり愛情を受けて育ち、他人の気持ちを知り、寄り添おうとしながら生きているユンジェ。そして彼とはまったく違って、愛情を受けられずに育った不良少年ゴニとの出会いと友情の物語。この物語を訳した矢島氏は「人を愛するとは、人に共感するとはどういうことか、ずっと考え続けている。」と述べている。「人間を人間にするのも、怪物にするのも愛だと思ふようになった。そんな話を書いてみたかった。」と語る作者の言葉がここに深く染み込む、すばらしい作品です。</p>	<p>図書館にあります！</p>
	<p>マイクロアグレッションを吹っ飛ばせ-やさしく学ぶ人権の話</p>	<p>渡辺雅之</p>	<p>マイクロアグレッションとは、マイクロ=微細(目に見えないくらい小さな)、アグレッション=攻撃性。 「誰かを差別したり、傷つけたりする意図があるなしとは関係なく、対象になった人やグループを軽視したり侮辱するような敵対・中傷・否定のメッセージを含んでおり、それゆえに受け手の心にダメージを与える言動です。マイクロアグレッションは私たちの日々の生活や会話の中で「ふつう」に語られることが多く、発した本人もその問題性(加害)に気づかないという特徴があります。 人権とはそもそも何、差別ってどういうこと、とくにマイクロアグレッションはなぜ生まれ、どうすればなくなるのか？ 初心者にとっても分かりやすい本です。本書の中には、より詳しい内容を知りたい、理解を深めたい読者に対して、関連する記事を紹介するサイトURLとQRコードが随所に盛り込まれています。 第1章 人権とはなんだ?! / 第2章 差別とはなにか? / 第3章 差別はなぜ生まれるのか / 第4章 マイクロアグレッションを吹っ飛ばせ</p>	<p>図書館にあります！</p>

おすすめ図書&DVD

推薦学科	タイトル	著者・编者	紹介文	図書館所蔵有無
医療福祉学科 視能訓練専攻 のおすすめ作品	目の見えないアスリートの身体論 なぜ視覚なしでプレイできるのか	伊藤亜紗	全盲のアスリートが全力で走ったり泳いだり跳んだりする姿を見ると驚きや不思議が湧きあがりますね。本書はタイトルの通り身体能力やその使い方が中心となり、実際のアスリートたちとの興味深い対談が綴られています。障害のある方が競うというシンプルな定義はできても、それぞれに異なる障害を持つ人たちの競技です。スポーツにおいて重要な「公平さ」を保つことを考える必要がどうしても出てくるわけですが、このことは一般社会での公平さの捉え方のヒントにもなりそうです。	図書館にあります！
	日本語とにらめっこ 見えないぼくの学習奮闘記	モハメド・オマル・アブディン著 河路由佳(聞き手・構成)	スーダンから福井の盲学校に鍼灸(はり・きゅう)を学びに留学生としてやって来たアブディンさん。見えず、日本語もわからず、日本に知り合いもなくそれができるところから訳が分からない(!)なのですが、さらに現在のアブディンさんは日本語能力試験一級合格、日本の点字を使いこなし、大学の教壇にも立ち、おやじギャグにも自信がある。盲であることが日本語習得に影響しないはずがなく謎だらけですが、ご本人の能力、努力はもちろんのこと、周囲の方々の存在も大きそうです。なかなかすごい内容のはずなのですが、楽しくとも読みやすい本です。	図書館にあります！
図書館のおすすめ作品	不可能を可能に——点字の世界を駆けぬける	田中徹二著	本書は、点字図書を貸し出す日本点字図書館の前理事長であり、自身も10代で失明した著者のエッセイです。当事者にならでの視点で行われた様々な支援活動について、その裏側や困難さがそれほど硬くない文章で書かれています。予算確保の課題や海外との比較などの実務的な話から、著者の行動力や、それを支える人たちの情熱までしっかり描かれていて、異なる景色を知るヒントになると感じました。	図書館にあります！
	「自分らしさ」と日本語	中村桃子著	夫婦の姓名や漫画における女ことばなど、身近な日本語を通して、「自分らしさ」について考える本です。ここでの「自分らしさ」とは他の人が持つ「自分らしさ」も含まれています。普段使っている言葉の背景にどんなものがあるか、考えるきっかけになるかもしれません。	図書館にあります！
	差別はたいてい悪意のない人がする	金知慧著 伊怡景訳	本書には様々な事例から、いかに差別というものがあるかが述べられています。韓国国内の事例が中心ですが、日本とも共通する部分が多く、同じような問題が議論されていることがわかります。本書を通して差別や多様性を知るといことは、様々な課題解決に役立つのではないのでしょうか。	図書館にあります！
	児童養護施設で暮らすということ 子どもたちが紡ぐ物語	檜原真也	社会の中には虐待や家庭内の不和などのいろいろな理由で家族と離れて暮らしている子どもたちが存在しています。児童養護施設はそのような子どもたちが職員と生活をしている場所です。著者は大学院で臨床心理学を学び、卒業後、児童養護施設の児童指導員として働き始めます。子どもたちとつづがなく生活を送る中で衣食住を心地よく過ごす工夫や知恵や配慮が書かれており、あたりまえと感じていたことが価値あることに気づかされていきます。施設で暮らすこと働くことのおたくさんのエピソードが溢れている内容になっています。	図書館にあります！
	マンガでわかるLGBTQ+	パレットトーク著 ケイカマンガ	「LGBTQ+」(エルジービーティーキュープラス)って最近、聞いたりするけど、詳しく知らない人も多いのかなと思います。この本は「LGBTQ+」の基本から、最新の情報、お互いのできるまで、体験談を含む22のマンガを読みながら楽しく学べる内容になっています。性の多様性についてもっと知りたい人、初めて学ぶ人にもおすすめの本です。	図書館にあります！
	差別は思いやりでは解決しない—ジェンダーやLGBTQから考える	神谷悠一	社会の中では、差別については思いやりが大事という心の問題として捉えられていることが多く、その謎について解き明かしていきながら、ジェンダーやLGBTQの構造や制度についても書かれている内容になっています。最初から読むこともできますし、気になる章、必要な章だけ読んでも分かる構成になっています。	図書館にあります！
	アルジャーノンに花束を	Daniel・Keyes 小尾美紗 訳	人が生きていく上で、知識や知能は必要ですが、果たしてそれが人間の幸福につながるのか、本当の幸せとは何なのかという本質的な問題について考えさせられる作品です。日記形式で書かれています。映像化もされているので、是非そちらもご覧ください。	図書館にあります！
	異文化コミュニケーションに学ぶグローバルマインド	長谷川宏司 編 広瀬克利 編 井上進 編 繁森英幸 編	日本人と外国人との異文化コミュニケーションの実態が紹介されています。そこから「グローバルマインド」をどのように築いていくべきかを学ぶことができます。章が細かく分かれているので読みやすいと思います。写真も多く掲載されており、イメージしやすいです。	図書館にあります！